

# 地域の「足」を考える ～地域内交通等の利便性向上～



## 研究メンバー

福祉課	小笠原岳大
住民環境課	唐沢孝一
産業振興課	土岐俊
総務課	潮田孝則
税務課	唐澤直之
福祉課	木村匡志

# 第5次振興計画 「地域の足を守れ！」 公共交通活性化チャレンジ

## ○目的

地域交通網を整理し、生活利便性を高めることによる交通弱者対策

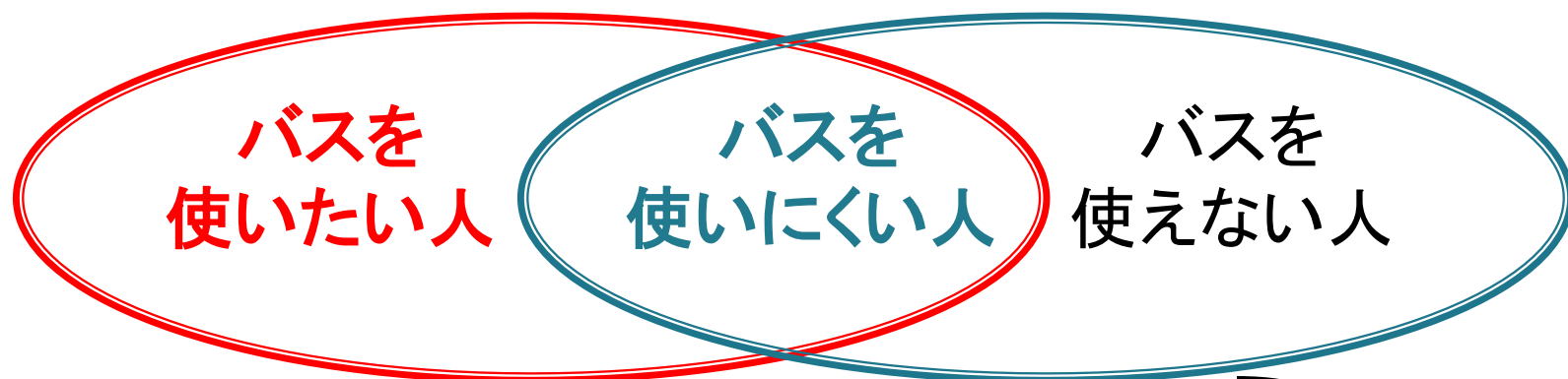
環境が変わっても安心して暮らせる、「暮らしの足」の確保

## ○目標

みのちゃんバス利用者数 40,000人(現状:31,000人)



# 対象者の整理



## ▶ バスを使いたい人

移動手段としてバスを使いたい

## ▶ バスを使いにくい人

時間等の都合で今のダイヤでは不便  
バス停まで遠く利用が難しい

本研究の  
対象者



# 事業対象者と規模

## ○公共交通を必要とする主な対象者

- ・運転に不安がある方、免許を持っていない方
- ・75歳以上のみ後期高齢者世帯（家族の支援がある、要介護状態等公共交通を利用できない方を除く）



75歳以上高齢者の約28%（約1,000人）

1日延べ200人利用 ⇒ 利用者約50,000人

（75歳以上人口：社人研推計）

（2017年10月：3,541人 → 2040年：4,422人）



# 現状と課題

## ○高齢者の外出目的

- ① 買い物      ② 通院      ③ 娯楽・趣味（温泉）

→主として日常生活で必要な行動であり、主に町内で完結

## ○高齢者の外出方法

70歳代後半から免許の返納等が進み、代替手段の  
必要性が高まる

## ○地域の公共交通

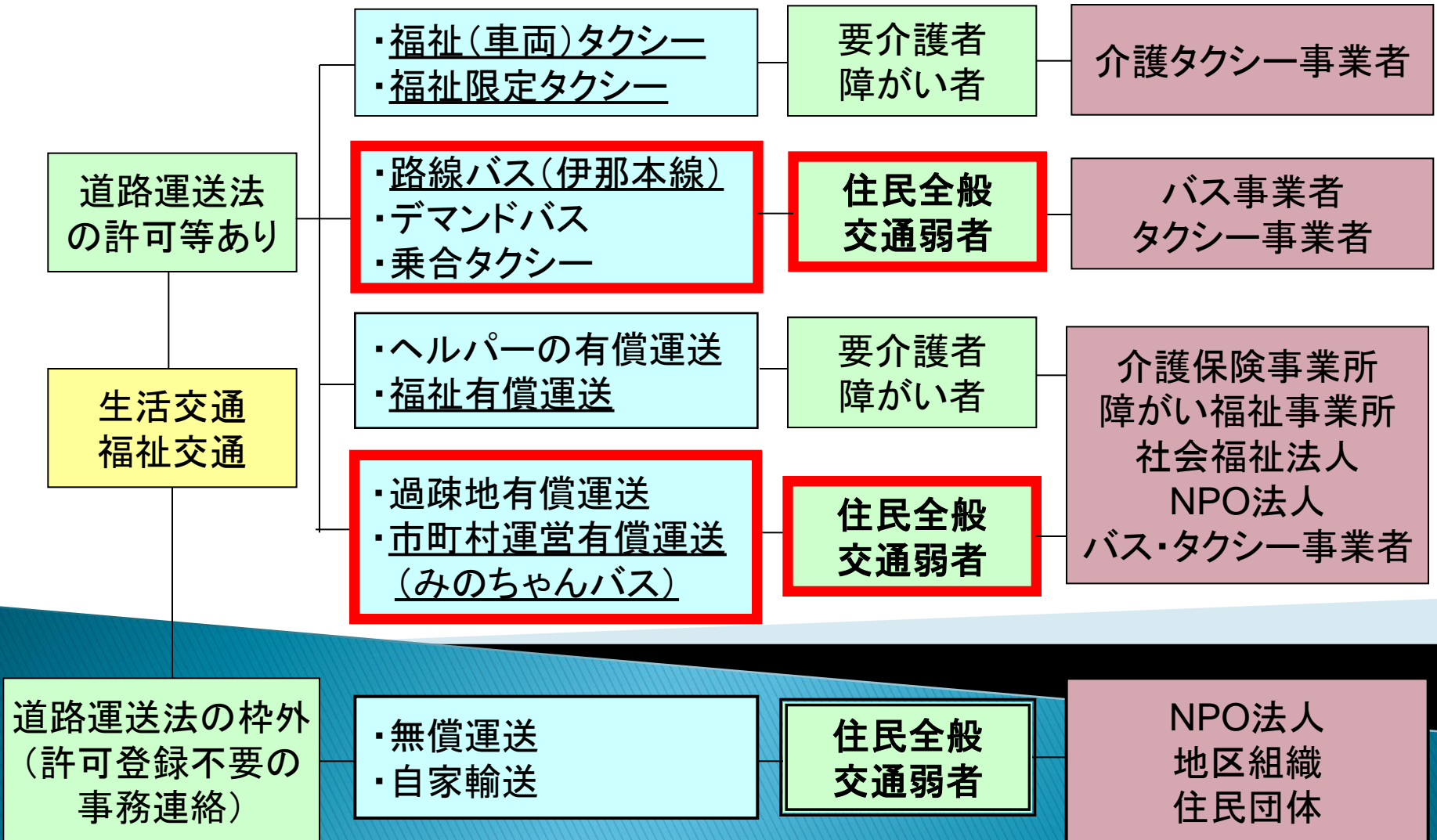
巡回バス（128.8人/日） ・ 伊那本線（3人/便）  
と利用が少ない



# 移動手段の確保

(下線部: 現行資源)

## — 支援の必要な人が利用できる移動手段



# 地域公共交通網計画アンケート（H28）

## 【町民からの改善の要望】

- 運行経路（乗換結節点：役場・ながたの湯）
- 便数（1日3便+中学生向け2便）
- 時刻（待ち時間、接続）

高齢者はバスに不便さを感じている

## 【バスの必要性】

住民の約6割が必要と感じている

バスの見直しを中心に検討



# 提案の概要

## ①既存バスコース・ダイヤの見直し

→医療機関への通院、買い物のためのアクセスを主とした利便性向上

## ②利用促進の方法

→「バス」を使ってもらおう周知や工夫

## ③バス以外の手段・方法

→デマンド型、地域住民等による支援

## ④様々な地域資源との協働

→地元大型店、ながたの湯など





# ①既存バスコース・ダイヤの見直し

●: 結節点



- 改善事項
- ・結節点の見直し ⇒ 伊那本線との接続、乗換の削減
  - ・路線・コースの見直し (午前・午後各2便)
    - ⇒ 通院・買い物に対する利便性向上
    - ⇒ デマンド交通にも応用可
  - ・朝夕の中学生対応便のスクールバスへの転換

## ②利用促進の方法

### 魅力向上

バスを使うことに魅力を感じてもらう

例)案内マップの作成、ポイントカードの作成(企業や商業施設との連携)

### 環境整備

バスを親しみやすいものにする

例)待合場所の清掃、イスや風よけ等の設備の充実化

### その他

バスならではの楽しみ方を知ってもらう

例)箕輪の四季体験ツアー、休日の癒しツアー  
(移動時間なども楽しめるツアーの提案)

### ③バス以外の移動手段・方法

道路運送法  
の許可等あり

- ・路線バス(伊那本線)
- ・**デマンドバス、乗合タクシー**  
細やかなルート設定が可能 ⇒ バス停が近くなる

生活交通  
福祉交通

- ・市町村運営有償運送(みのちゃんバス)

道路運送法の枠外  
(許可登録不要の  
事務連絡)

- ・**無償運送、自家輸送**  
非営利法人・地区組織・住民団体による取組み  
例) 自家用車を使った輸送  
町が車を地区に貸出し、地域住民が運営  
個別対応が可能 ⇒ 利便性の向上

## ④様々な社会資源との協働

### (現在ある資源)

- ・ 移動販売 (泰成運輸・J A)
- ・ 食品・日用品配送サービス (スーパー・コンビニ等)
- ・ 無償運送 (生協レインボー)
- ・ ネット宅配サービス (amazon等)

### (今後考えられる多様な主体との協働)

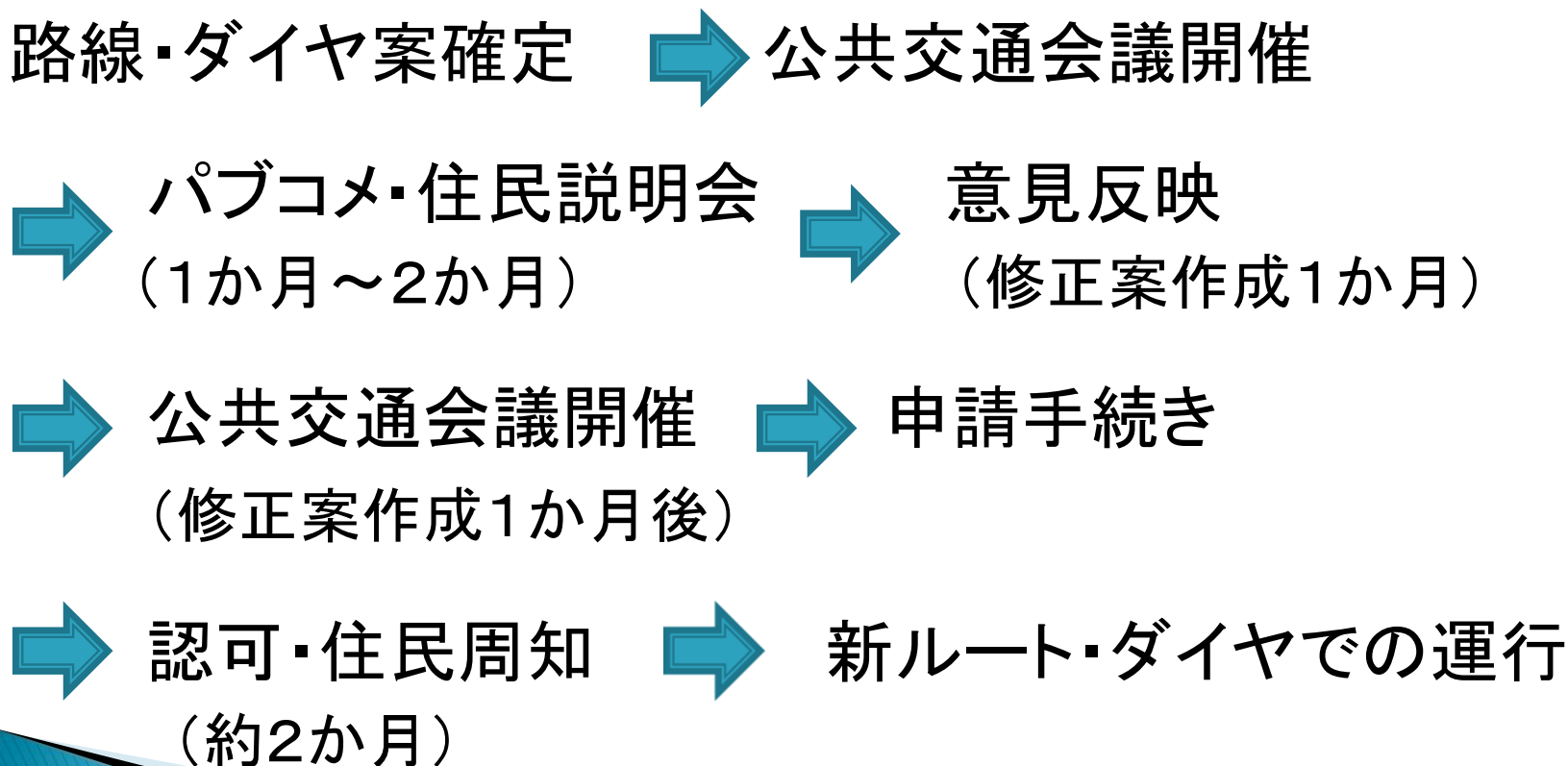
- ・ 地元大型店による送迎サービス  
大型店 ⇔ 地区 (曜日に応じて)
- ・ みのわ振興公社による送迎  
バスの結節点 (大型店) ⇔ ながたの湯など



# スケジュールと予算

## 【スケジュール】

変更登録までの流れ(約1年間必要)



# スケジュールと予算

## 【予算】

### ・バス2台運行委託料

H29 約1,680万円（運行時間13.5時間：5便）

見直し後 **約1,250万円**（運行時間 9.5時間：4便）

スクールバス **約1,000万円**（朝夕：2便/交付税措置）

### ・ダイヤ改正による路線図・時刻表印刷

**40万円**（10,000部）

### ・ダイヤ改正による車内音声ガイド・LED変更

75万円×2台 = **150万円**

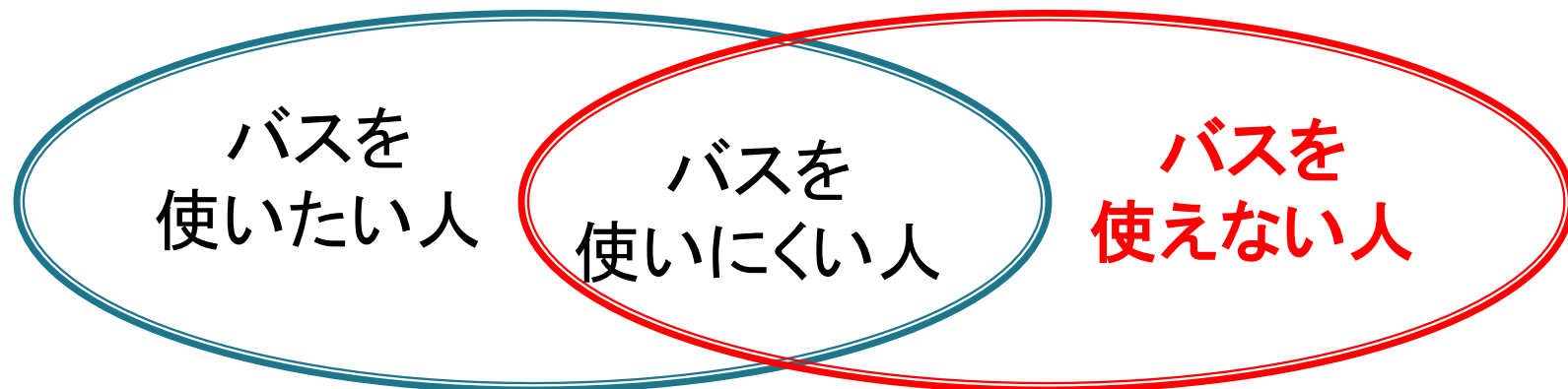
## 【経費・効果見込】

初年度：+760万円、2年目以降：**+570万円(+34%)**

利用見込数 3万1千人 ⇒ **4万6千人(+48%)**



# バスを使えない人への対応



- ▶ バスを使えない人  
乗降や移動に介助が必要

} 個別対応  
福祉的施策



# 個別対応(介助が必要な方)

## ○個別対応が必要な方の移動手段

- ・福祉タクシー ⇒ 利用料金が高い
- ・福祉有償運送 ⇒ 対象者の制限、運営困難

## ○個別対応が必要な方への施策(案)

例) タクシー等利用補助制度

利用者負担額500円とし、500円を超えた額を補助  
(交付条件)

- ・所得等により補助対象者を制限
- ・町内での移動に限る
- ・利用時間の制限 (朝から18時まで)
- ・乗合の利用可





# 中長期的な展望

- ・伊那本線の今後(2022年3月まで)
- ・多様な主体による移動支援の取組みの推進
- ・最適な公共交通手段の検討



## 【2020年度】

伊那本線のあり方とともに、  
みのちゃんバス(公共交通)  
の方向性を考える



# ご清聴ありがとうございました

